

1. 調査報告概要表

作成日 2009年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1570104040
法人名	特定非営利活動法人 友生会
事業所名	グループホーム風見鶏
所在地 (電話番号)	新潟県 新潟市 秋葉区 柄目木 352 (電 話) 0250 - 23 - 3351
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年11月27日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低 80 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新津医療センター病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東新津駅から徒歩5分の新津川・秋葉公園・八幡神社などの環境に恵まれた場所にある、名前の通り「風見鶏」が付けられた洋風な外観の1ユニットのグループホームです。玄関を入るとボランティアさんが作られた「風見鶏の歌」の歌詞が飾られており、利用者・家族・職員・地域住民みんなが作り上げている暖かなホームであることが感じられます。管理者・ホーム長・職員それぞれがしっかりとした考え方や熱意を持ってケアにあたられていますので、今回の課題となった帳票類の整備も含め、今後も話し合いの場を多く持ち、意見をぶつけ合い考えをすり合わせることで、今まで以上に皆の満足度を高めていかれることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった 虐待防止に関する研修 マニュアルの見直し 浴室の工夫に関しては職員で話し合い、改善が行われています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価でも全職員が自己評価を行い、ホーム全体を振り返る機会として取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所からの報告に加え、地域との交流に関する協力依頼や参加者からの意見が事業所の運営に反映されています。やむを得ず欠席をする参加者には事前に議題を伝え、意見を提出してもらう取り組みもされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置の他、日常的に家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、面会時に直接言ってもらえる関係が作られています。また、運営推進会議は全家族に参加を促し、幅広い意見を取り入れられるよう努められています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	苦情の相談、地域ケア会議への参加、ケース検討会議等を通じ、市役所・区役所・地域包括センターとの関係が構築されています。また、共有型デイサービスの開始もあり、密に連絡が取られています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で人が集まり協力して、気持ちよく生活してもらいたい。利用者との長い付き合いをしたい。自分達が最期に住みたいと思うホームにしたい。という様々な思いを5つにまとめ、「大切に思っていること」として事業所独自の理念が作り上げられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の入口への掲示の他、日々の申送りや月1回の例会などの話し合いを通し、理念をもとにした意思統一が図られています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居案内、事業所からのお便り、運営推進会議、地域の行事への参加の際などを通して、家族や地域に対して事業所の取り組みや大切にしていることを理解してもらう取り組みが行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板から情報を収集し、地域の歴史勉強会や歌の会などの行事への参加が行われています。また、近所の神社の神主さんである区長さんの奥さんが民生委員をしており、運営推進会議に参加していることもあり、日常的に協力が得られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回課題となった 虐待防止に関する研修 マニュアルの見直し 浴室の工夫に関しては職員で話し合い、改善が行われています。また、今回の評価でも全職員が自己評価を行い、ホーム全体を振り返る機会として取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、地域との交流に関する協力依頼や参加者からの意見が事業所の運営に反映されています。やむを得ず欠席をする参加者には事前に議題を伝え、意見を提出してもらい取組みもされています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情の相談、地域ケア会議への参加、ケース検討会議等を通じ、市役所・区役所・地域包括センターとの関係が構築されています。また、共有型デイサービスの開始もあり、密に連絡が取られています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り、毎月の例会にて、ケース検討をもとに対応方法の共有がされています。また、ホームドクターとの相談関係も構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に送る利用者個々の様子を記した手書きのメッセージは大変好評で、今まで送られてきたものを全てとってあるという家族もいるほどです。加えて、健康状態・金銭管理についても書面にて報告が行われています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、日常的に家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、面会時に直接言ってもらえる関係が作られています。また、運営推進会議は全家族に参加を促し、幅広い意見を取り入れられるよう努められています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、毎月の例会にて、職員の意見や提案を吸上げる機会が設けられています。加えて、日常的に管理者・ホーム長からの声かけが行われています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職が発生した場合は、家族に対しては書面にて説明を行い、利用者に対しては納得をして安心できるように説明が行われています。また、日常的な情報共有によるチームケアにより、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは一通り完備されています。また、前回の評価の際課題となった、見直しについては、年に1度年末に時期を定めて見直しが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望を聞き、外部研修や内部研修への参加の機会が設けられています。また、資格取得の奨励や地域のグループホームとの交換研修も行われています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主体となり、中学校区の地域密着型施設の会議が開催され、意見交換が行われています。また、地域のグループホームとの交換研修も行われています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接するシェアハウスの1室が職員の休憩室になっており、ゆっくりと休憩を取れる場所が確保されています。また、日々の送りや毎月の例会による話し合いの場、仕事を離れた飲み会などの場が設けられています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学によるホームの雰囲気や馴染む取り組みや訪問・面談による顔なじみの関係づくりや納得感を高める取組みが行われています。加えて、共有型デイサービスを開始し、グループホームを利用する前から馴染みの関係を作る取組みも行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者中心の発想を全職員が持ち、自室での話し合いや添い寝など、1対1の対応が心掛けることで、喜怒哀楽を共にし、利用者から学び、支えあう関係が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、利用者と家族が良好な関係を保てるよう、事業所が関わり、面会や外出の機会を設けることや、利用者の状態に応じた適切な面会時間のアドバイスなどがなされています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を踏まえた決め細やかなケアが実施されており、記録も残されていますが、記録として残された情報を集約し蓄積する点に課題が残ります。		定期的に情報を集約し蓄積する仕組みづくりとより一層の活用を期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握同様、利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を踏まえたきめ細やかなケアが実施されており、記録も残されていますが、記録として残された情報を集約し蓄積する点に課題が残ります。		思いや意向の把握同様、定期的に情報を集約し蓄積する仕組みづくりとより一層の活用を期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者自身の訴えや様子、面会・電話・手紙などから得られる家族の意向、例会等で話し合われた全職員意見を集約してケアプランが作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申送りにより利用者の状態を全職員が共有し、1ヶ月に1度居室担当とケアマネージャーによるモニタリングを踏まえ、3ヶ月に1度の定期的な見直しが行われています。加えて、状態変化による随時の見直しも行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や都合に応じた外泊や受診同行など、小規模ならではの個々の状況に応じた支援が行われています。また、共有型デイサービスやシェアハウスといったグループホーム以外の取組みでも、法人全体で地域のニーズに柔軟に対応がとられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にしつつ、ホームドクターを併用するなど、本人にとって最良の医療が受けられるよう対応がとられています。個々のかかりつけ医とは情報提供書を作成し、家族を介しての情報交換が行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームドクターとの連携、家族の意向把握と職員間での共有が行われています。		実質的な取組みは行われていますので、「同意書」などの書面や制度の確立を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に配慮した対応が周知徹底されています。また、個人情報の取扱いはマニュアルに基づき、家族にも周知されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「後で後悔したくない。」「本人・家族・事業所の満足度を高めたい。」という思いを職員が持ち、一人ひとりのペースに添った個々への対応が取られます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した旬の食材をメニューに取り入れ、理念にある「五感を刺激する」の具体的な取組みが行われています。また、利用者の希望や状態に応じて準備や片付けが職員とともに行われています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表による排泄パターンの把握や仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われており、車椅子の利用者でも2人介助でトイレ誘導が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と入浴時間に関して、体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、入浴拒否に対しては、理由をしっかりと把握し、タイミングや声かけの方法を職員で連携して対応がとられています。加えて、冬場は脱衣場を暖めておくなどのきめ細やかな対応がとられています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念にある「五感を刺激する」に基づき、1日1回でも感動を持ってもらえるよう、生活暦を踏まえ、軽作業や趣味など、利用者それぞれに対する役割、楽しみごと、気晴らしの支援が行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩のコースに墓参りなどの馴染みの場所を加える工夫や買い物、外食、ミニコンサートなどのイベントを企画し、戸外に出かけられるよう支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の例会の場などを活用し、ケースごとの状況に応じた対応の話し合いが行われており、周知徹底が図られています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンの把握と見守り、定期的な所在確認により、日中は鍵をかけないケアが実践されています。また、近隣住民に予め予想できることは伝え、協力体制が確立しています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスや例会にてヒヤリハットや事件事例についての再発防止策の検討が行われており、ケース記録や例会の議事録に記録が残されていますが、ヒヤリハット報告書は作られていません。		ヒヤリハット報告書を作成し、情報の一元管理と蓄積を行い、再発防止に活用されることを期待します。
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回、継続的に消防署の救命救急講習に参加し、全職員が受講されています。また、利用者ごとの急変時の対応について、主治医と相談が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの周知とともに、2ヶ月に1回の避難訓練では、職員のみならず、利用者の動きを把握する工夫がされています。また、消防署との連携も計画的に進められています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿を活用し、毎食毎に食事量・水分量のチェックが行われています。栄養管理に関しては、定期的に管理栄養士による栄養チェックとアドバイスが行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に白と木目を基調とした清潔感ある空間となっています。また、多目的スペースや廊下に団らんコーナーがあり、居室以外で思いおもいに過ごせる空間が設けられています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを利用者自身が選ぶことや、利用者が作ったタペストリーを飾るなど取組みや、使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。		